

## 駿河ほねほね団報告

壬生花世・相川英介・清水隆弘

### 壬生花世

科学技術高校 1 年生の壬生です。駿河ほねほね団は、今回で 3 回目の参加となります。以前から駿河ほねほね団に興味があり、高校生になったら参加したいと思っていました。ここでは、普段の生活では知ることができない生き物の内側を実際に見て触れることができるのが 1 番の魅力だと思っています。今回私はイノシシの頭部の除肉作業を行いました。1 回目にしたチョウセンイタチの頭部の除肉作業と比べ違いに驚きました。イタチの歯は尖ったものが多く、イノシシの歯はすり鉢状になっているものが多く見られました。知識としては知っていましたが実際に見たのは初めてで食べ物によってこんなに違うのかと感心しました。これからも様々な生き物を観察していきたいです。

### 相川英介

僕が駿河ほねほね団に入団し、4 年が経過しました。動物が好きだった僕に祖母が勧めてくれたのが入団のきっかけです。入団当初、小学校 5 年生だった僕はどうしたら良いかわからずオロオロしていましたが、メンバーの方にメスなどの使い方や除肉の方法を教えてもらい、オス・メスの見分け方や、歯の摩耗から老年と若年の違い、皮の手触りなど動物の種類による違いを知りました。活動を進めて行くうちに生き物が生きて行く上で欠かせない体の作りの繊細さに気づき感動することがありました。7 月の活動では、イタチの除肉を行いました。顔のあたりの損傷が酷かったことから交通事故の可能性が高いとメンバーで分析しました。この出来事を通して動物の生きる環境と命のつながりについて考えさせられました。駿河ほねほね団に入団し、命の尊さを学んでいます。

### 清水隆弘

活動に参加させていただき 3 年目になりました。アライグマやイタチなど毎回インパクトがあり、今月は何だろう？と毎回の活動を楽しみにしています。自分は普段は科学技術高校で生物を教えている教員です。こんなに楽しい活動について、自分だけ楽しんでいてはもったいな



熱心に解剖する団員

いと思い、授業中にも骨格標本作りの話をします。標本作りのことだけでなく、アライグマなど外来生物が個体数を増加させている事実も身近な体験として伝えることができるので、ここでの活動に参加させていただきありがたいと思っています。高校生の反応は様々ですが、イノシシの肉をそぎ落とすだとか日常にはない話になるので、50 分間の授業を退屈せずに終えるのに役に立っていることは間違いありません。科学技術高校だけあって、もの作りの好きな生徒は多いのか、骨格をデジタルデータ化して 3D プリンターから模型を作成していく話題には生徒もよく聞いてくれていたような気がします。授業の進度を考えると、なかなか授業中に骨格標本作成をしている余裕はありませんが、昨年度は工業科 3 年生の選択生物の授業で、マウスの解剖（内臓観察）から始めて約 4 週間かけて骨格標本を作ることができました。また、理数科 2 年生の課題研究では、麻機遊水地で捕獲したクサガメの骨格標本を作成したり、マウスの仮はく製を作製してみたりと、生徒が楽しんで活動することを助けることができました。毎回助言をいただいている佐々木さんには感謝しております。老眼を発現しつつある自分よりも生徒は上手に標本を作りますね。「やらされている」実習ではなく、本当に「やってみよう」と思って活動する実習について、生徒は本当に生き生きと活動します。

今後も駿河ほねほね団の活動を楽しみながら、生物や自然に興味をもつ生徒を増やしたいと企んでいます。